

2013

6月18日

火曜日

建設新聞

発行所 建設新聞社

本社 仙台市青葉区春日町7-5 TEL022(221)4601(大代)

青森支局 青森市古川1丁目21-11 TEL017(722)8631(代)

岩手支局 盛岡市菜園1丁目3-6 TEL019(651)8045(代)

秋田支局 秋田市山王4丁目3-10 TEL018(862)6921(代)

山形支局 山形市松波1丁目10-16 TEL023(641)2800(代)

福島支局 福島市宮下町17-20 TEL024(534)0138(代)

東京支局 東京都江東区豊洲1-3-2 TEL03(5547)1367



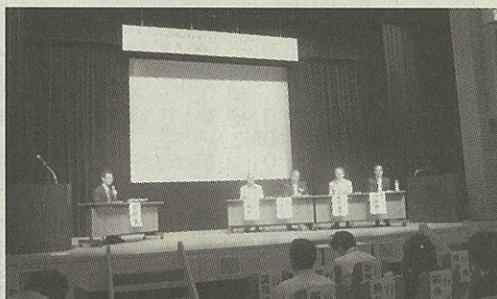
「使いづらい資材」行政責任で活用を

がれき処理コンソがシンポジウム

資源循環を真剣に考えるべき

産学連携による「震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム」(代表・久田真東北大学教授)は14日、行政を交えてシンポジウムを開催し、がれき処理と有効利用の現状と課題について話し合った。この中では、コンクリート等の再利用が進む一方、多様な成分を含む津波堆積土や焼却灰などの利用法が課題とされ、こうした「使いづらい資材」については行政の責任で活用すべきとの意見が挙げられた。南海トラフ地震を視野に入れた今後の課題について学識経験者は、資源循環を真剣に考えるべきと強調した。

仙台市戦災復興記念館で行われたシンポジウムにはコンソーシアム関係者や行政などから約180人が集まった。会員各社の技術発表に



続く、パネルディスカッションでは東北地方整備局河川工事課の二瓶昭弘課長補佐と宮城県環境生活部の佐々木源次長、コンソーシアムの久田代表と副代表の風間基樹東北大学教授、北辻政文宮城大学教授が「がれき処理・有効利用から学んだこと」をテーマに話し合った。

「一方、がれきの再利用についてはコンクリート等を除き「苦戦している」と説明。津波堆積土をふるい分けした分級土や、焼却灰からつくる造粒固化物の活用は抵抗感を示す自治体が多いとし、特に焼却灰については「災害復旧事業とうまくマッチングできないことが行政側の最大の課題」と反省した。

二瓶氏は仙台湾南部の復旧に当たって震災から1カ月後に関係省庁や自治体による連絡会議を開き情報共有を進めたが、がれき活用の調整はその1年後になったことから

「もっと早くからやっておくべきだった」とした。さらに、東北整備局が仙台南部海岸の復旧に当たって津波堆積土とコンクリート等を混合して活用している事例を紹介。仙台市と名取市から発生した土砂を活用しており、山元町も検討していることを明らかにした。

風間教授は津波堆積土と切土の活用について、環境保護の観点からまず津波堆積土の活用を考え、それができなくなつた時に切土の使用を検討すべきと指摘。北辻教授は、利用が進んでいない焼却灰について「国が率

ある一方、がれきの再利用についてはコンクリート等を除き「苦戦している」と説明。津波堆積土をふるい分けした分級土や、焼却灰からつくる造粒固化物の活用は抵抗感を示す自治体が多いとし、特に焼却灰については「災害復旧事業とうまくマッチングできないことが行政側の最大の課題」と反省した。

二瓶氏は仙台湾南部の復旧に当たって震災から1カ月後に関係省庁や自治体による連絡会議を開き情報共有を進めたが、がれき活用の調整はその1年後になったことから

「もっと早くからやっておくべきだった」とした。さらに、東北整備局が仙台南部海岸の復旧に当たって津波堆積土とコンクリート等を混合して活用している事例を紹介。仙台市と名取市から発生した土砂を活用しており、山元町も検討していることを明らかにした。

風間教授は津波堆積土と切土の活用について、環境保護の観点からまず津波堆積土の活用を考え、それができなくなつた時に切土の使用を検討すべきと指摘。北辻教授は、利用が進んでいない焼却灰について「国が率

先して盛土材として活用してほしいと要望した。また、今後発生する南海トラフ地震のがれき発生量が東日本大震災の10倍と見込まれていることを踏まえ、提言が相次いだ。

二瓶氏は、すべてのがれきを再利用するのは困難との見方を示した上で、「使いやすいものを使いにくいものの線引きが必要。使いやすいものがあるものは行政が責任を持って活用すべき」と強調した。

風間教授は用途や求められる品質に応じた処理の在り方などを整理すべきとしたほか、最終処分場不足について「震災前からごみ処理は場当たり行政だった」と指摘し、「資源循環を真剣に考え、普段から処理能力に余裕を持たなければいけない」と述べた。

佐々木氏は、大都市に

ある都市型プラントの有効活用と仮設プラント設置を想定した広大なヤードの確保、造粒固化物を

受け入れる大量の埋立ヤードを計画することが重要と提言した。

技術情報集は会員が保有する92技術を▽コンクリートがれき▽津波堆積土▽がれき焼却灰(主灰)▽同(飛灰)▽残渣(ふるい下)▽除染(放射能)▽汚染物質の保管▽未利用資源▽その他に分類し紹介しているほか、公共工事に採択された技術や、提供したがれきで得られた技術情報なども掲載している。今後、被災自治体に配布する。

技術情報集は会員が保有する92技術を▽コンクリートがれき▽津波堆積土▽がれき焼却灰(主灰)▽同(飛灰)▽残渣(ふるい下)▽除染(放射能)▽汚染物質の保管▽未利用資源▽その他に分類し紹介しているほか、公共工事に採択された技術や、提供したがれきで得られた技術情報なども掲載している。今後、被災自治体に配布する。

技術情報集は会員が保有する92技術を▽コンクリートがれき▽津波堆積土▽がれき焼却灰(主灰)▽同(飛灰)▽残渣(ふるい下)▽除染(放射能)▽汚染物質の保管▽未利用資源▽その他に分類し紹介しているほか、公共工事に採択された技術や、提供したがれきで得られた技術情報なども掲載している。今後、被災自治体に配布する。

技術情報集を発刊

被災自治体に配布

久田代表は「未利用資源をうまく資材として使う道筋をつけることが将来の資源循環の枠組みに落とし込める」とコメントした。

技術情報集は会員が保有する92技術を▽コンクリートがれき▽津波堆積土▽がれき焼却灰(主灰)▽同(飛灰)▽残渣(ふるい下)▽除染(放射能)▽汚染物質の保管▽未利用資源▽その他に分類し紹介しているほか、公共工事に採択された技術や、提供したがれきで得られた技術情報なども掲載している。今後、被災自治体に配布する。